

経営体の概要

- ・所在地：徳島県美馬市
- ・経営体名（株）アグリサポート美馬
- ・栽培作物・作付面積：水稲 50ha
- ・従業員10人、パート7人（令和6年4月現在）

導入技術

- ・産業用マルチローター MG-1(株)ヤンマーアグリジャパン
- ・圃場管理システム アグリノート
- ・自走ロボットトラクタ ㊦セキTJV655R
- ・水分含量自動計測コンバイン ㊦セキH099G
- ・直進アシスト田植機 ㊦セキHNP60

①産業用マルチローター

②自走ロボットトラクタ

③水分含量
自動計測 コンバイン

④直進アシスト田植機

⑤圃場管理システム

水稲の作業面積
令和元年約30haから
令和5年50haに拡大



導入経緯

- ・(株)アグリサポート美馬は中山間地域において、約30ha（作業受託面積含む）の作付を行っていたが、その筆数が400筆と多く今後の規模拡大には作業の効率化が課題であった。
- ・そこで令和元年、2年にスマート農業機器を導入し、水稲作業における効率化、省力化及び平準化を向上させ経営面積の拡大に取り組んだ。

取組の特徴・効果

- ① 産業用マルチローター（農業用散布ドローン）を導入し水稲の防除作業に活用。R4は防除面積約34haを実施。水田に投げ込む省力的薬剤と比較し、生育状況に応じ栽培期間中の適期防除が容易に可能となった。
- ② 自走ロボットトラクターは、法令から外周部分は稼働できないものの繁忙期に広い農地では有人トラクターのサポート役として効率的に活用できるようになった。
- ③ 水分含量自動計測コンバインは、データの蓄積から過去のデータを活用した肥培管理が可能となった。
- ④ 直進アシスト田植機は、経験の少ない作業員でも熟練者と同じ精度の高さが確保でき作業の平準化が可能となった。
- ⑤ 圃場管理システムは紙ベースの管理とは一歩進んだ見える化から全体作業の進捗状況管理が容易になった。

今後は受託作業にリモコン草刈機などによる環境にやさしい農業に配慮した展開について検討し、結果受託水稲の付加価値を生み出したい。